

## 農の原点 人と馬のかかわり ～小学生が馬耕学ぶ～



春の陽だまりの中、馬が鋤(すき)を引いて田んぼを耕す「馬耕」が東松島市野蒜のなかしも中下地区で行われた。

これは、昔の農作業を知ること、子供たちに農業への関心を持ってもらいたいとの願いから、地元の自治組織「のびる多面的機能自治会」が開催。当地区で営農する(有)アグリードなるせや、一般社団法人美馬森 J a

p a n などが全面的に協力し、毎年行われている。

美馬森 J a p a n のシニアパートナーで、今年から当地で牧場を経営する八丸健さん(47)が所有する馬の「ショウちゃん」は、子どもたちの声援を受けながら、農作業に汗を流した。

その後、子どもたちは馬耕した田んぼで、「のびる米」と呼ばれる米の種まきにも挑戦。5月には田植えを行った。今後は秋に稲刈りを体験するほか、地元のお祭りでコメの販売を予定している。

事業の仕掛人であるアグリードなるせの社長で農業委員を務める安部俊郎さん(61)は、「子供たちに人と馬がかかわる昔ながらの農作業の原点を感じてもらいたい」と語る。



【記事提供：東松島市農業委員会】